高校生の観光事業構想コンテスト

観光甲子園 NEXT TOURISM CONTEST 2022

空飛ぶクルマ部門

＜準決勝事業企画書＞

タイトル

タイトル 10～20文字	観光新時代!天(ソラ)の民と空(ソラ)の旅!

サブタイトル 20～30文字	古きを訪ねて新しきを見出す空飛ぶ観光の旅

チーム情報

都道府県	徳島県
高等学校名	徳島県立池田高等学校
チーム名	観光班ART
担当教職員名	井上　琢斗

メンバー名	学年	性別	氏　　名	担　　当	代表
メンバー①	2	男	岡部 新大	企画・調査	○
メンバー②	2	男	三木 崇弘	企画・調査	
メンバー③	2	男	村中 玲治	企画・調査	
メンバー④					
メンバー⑤					

※１チームのメンバーは３～５名
※担当欄にはチームにおける担当業務（企画、調査、取材等）を記入
※代表欄にチーム代表者１名に「○」を入れる

1　三好市の地域課題①

- 伝統産業の担い手不足

  祖谷周辺の過疎化、郷土料理などの文化の継承者不足。

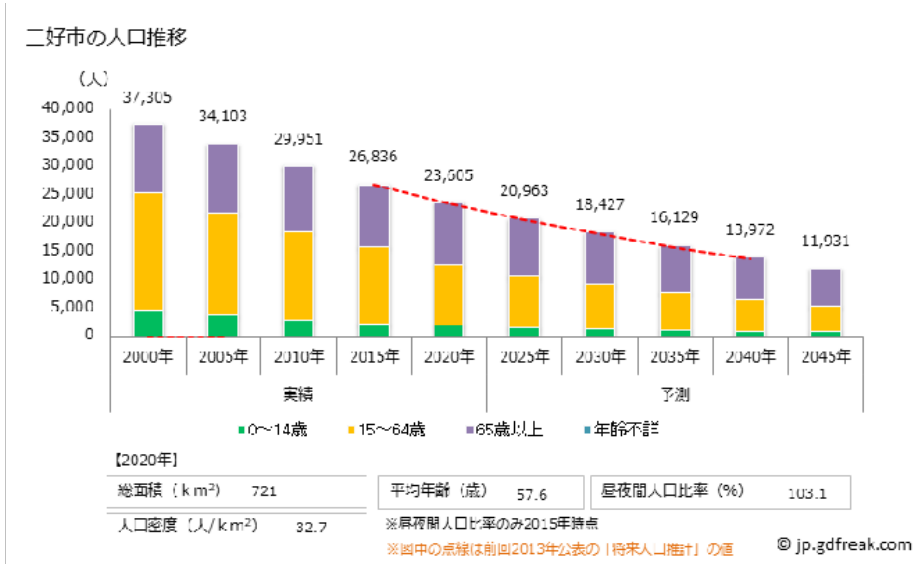
- 三好市全体の少子高齢化や過疎化

  若者の都市部や県内他地域への移住により、<u>過疎化や少子高齢化が顕著</u>。**※特に祖谷周辺が著しい**・・・資料①

- 山間部地域の天候

  冬季の路面凍結や積雪の影響で、観光業を縮小せざるを得ない。

  ・・・資料②



資料①:三好市の人口推移

人口減少による過疎化(主に若年層の割合が減り、相対的に高齢者が多くなる)

資料②：冬季の祖谷の様子

標高が高い祖谷を中心に積雪と道路凍結が起きる

1　三好市の地域課題②

- 公共施設の利便性の低さ

  山間部の祖谷周辺では公共施設が点在しており、移動コストが大きい。・・・資料③

- 空き家が多い

  管理者のいない空き家が多く、災害時の被害が大きくなる。・・・資料④

冬季でも営業可能で、

点在するスポットを効率よく移動できる観光プランを創出することで、課題を解決できるのでは？

⇒**空飛ぶ車を利用する！**

資料③：祖谷の施設の配置

施設が点々と位置している山間部であるため
移動時間が大きくなってしまう

資料④：三好市に点在する空き家

特に祖谷地方に多く、管理人がいないなどの問題がある

2　構想する事業アイデアの詳細とそのねらい

「観光新時代！天（ソラ）の民と空（ソラ）の旅！」

・天（ソラ）の人や天空の集落を巡る旅

　市の中心部として栄えていた阿波池田地区の人々を**「マチの人」**というのに対し、祖谷や大歩危などの山間部に住む人々を**「ソラの人」**という。ソラの人が住む集落は標高の高い位置にあるため**「天空の集落」**と呼ばれる。この事業アイデアでは、空から山間地を眺めるだけでなく、天空の集落を巡り、ソラの人と交流することができる。

・深い渓谷が続く地域だからこその立体的な空のルート

　茅葺き屋根の古民家が残る、国指定伝統的建造物群に指定されている落合集落の集落内の高低差は約390mある。同じような集落は各地に点在しており、縦横に立体的に広がる天空の集落を巡る。

2　構想する事業アイデアの詳細とそのねらい

古きを訪ねて新しきを見出す空飛ぶ観光の旅！

1.楽校の宿（小学校を改装した宿泊施設でヘリポートがある）から出発し、空飛ぶ車で**雲海**、**ひの字渓谷**（深いV字渓谷）を眺めてソラの景色を体感してもらい、**落合集落**へ向かう**。その際、ARシステムを用いて空の旅を充実させる。**

2.落合集落では空飛ぶ車から降り、実際にソラの暮らしに触れてもらい、地域の人と一緒に郷土料理を作って食べたり、農作業を手伝ったりする。

3.再び空飛ぶ車に乗って、**落合集落**から**かかしの里**（人よりかかしの数が多い名所）、**二重かずら橋**（シラクチカズラという植物でかけられた橋）へ向かい、独自の文化が残る奥祖谷の景色や暮らしを見て回る。

4.空から見て、降りてみたい場所に降りてみる。

2　構想する事業アイデアの詳細とそのねらい

ARシステムについて

•空飛ぶ車は従来の車と違い、道路のない空を走る。

•複数の車が**安全に**走れるように、統一された空の道路や地図を作成する必要がある。

•空飛ぶ車のフロントガラスを通して道路や信号、進路方向を表示し、空での交通事故の**リスクを軽減する**。

•また、建物や看板を認識させ、その場所の店舗情報を表示するなどARを最大限に活用し、**ソラの旅を充実させる**。

2　構想する事業アイデアの詳細とそのねらい

事業のねらい

- 「ソラ」の景色や暮らしに直接触れてもらうことで、**祖谷地域や三好市の魅力**を感じてもらう
- 空と地上の二つの視点から**新しい価値観**を見出す
- 今までにない空からの観光ツアーを創り出し、**三好市全体の観光業を活性化する**
- 環境と調和した祖谷の郷土料理や自給自足の暮らしを体験してもらい、**食と暮らしのつながりの大切さ**を学ぶ
- 雲海の上を車で飛ぶ空中散歩で自然を体感してもらい、渓谷の**壮大な全体像を空から楽しんでもらう**
- **空とぶクルマならではの価値を活かす！**

⇑プランのルート

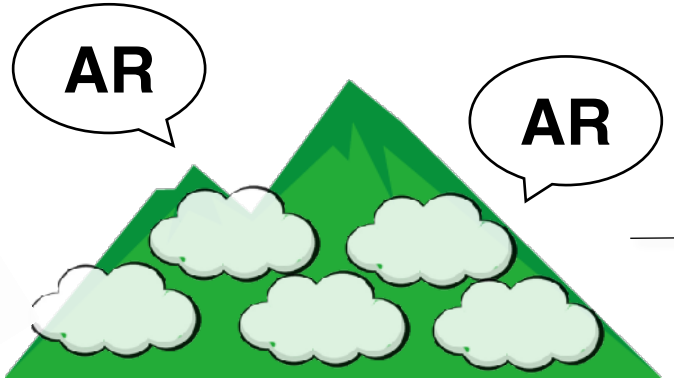
陸上交通では移動時間（約２～３時間）がかかるが、空飛ぶ車では大幅に時間を短縮（約３０分）できる。

⇑各地に点在する集落

天空の集落では、救助用につくられたヘリポートが各地に存在するため、ツアーの発着地として活用できる。

3「ソラ」の旅のイメージ

楽校の宿



雲海・渓谷を上から眺める

集落を訪れる

再び空飛ぶ車に乗り、気になったところに降りてみる

ひらら焼き

でこまわし

ソラの人との交流や郷土料理の食事

４　事業の実現に向けた年次計画

「ソラ」の旅の年次計画

- 2024年　ドローンを使った現地調査
- 2026年　地域住民への意識調査
- 2027年～　住民説明会
- 2030年～　AR道路などのインフラ整備
- 2035年～　観光事業開始

「空飛ぶ車」の動向

- 2022年　海外製空飛ぶ車の型式証明申請の受理
- 2025年　大阪万博を起点に商用化
- 2030年～　企業向けに販売開始
- 2035年～　一般販売開始・観光事業開始

５　事業アイデアの実現に向けた壁

- 地域住民の理解・協力が得られるか

  ⇒意識調査・説明会の実施

- 空飛ぶ車を導入した場合の自然環境への影響

  ⇒継続的なアセスメントの実施

- 空飛ぶ車の離発着場・メンテナンス施設、

  ARインフラ等の整備